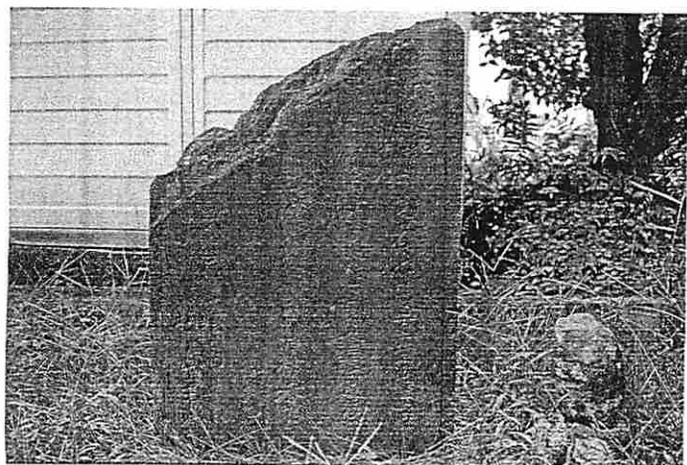
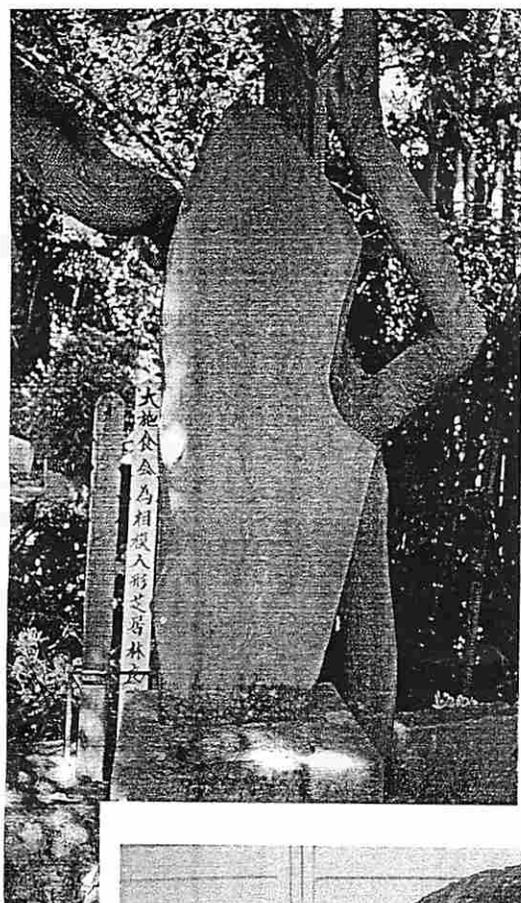
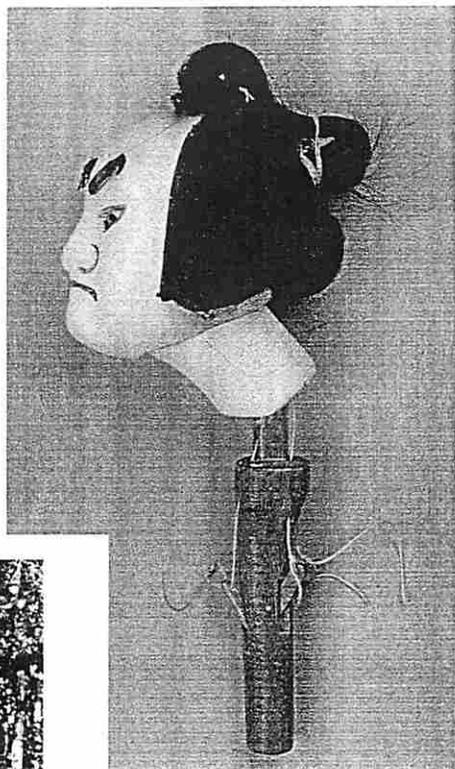
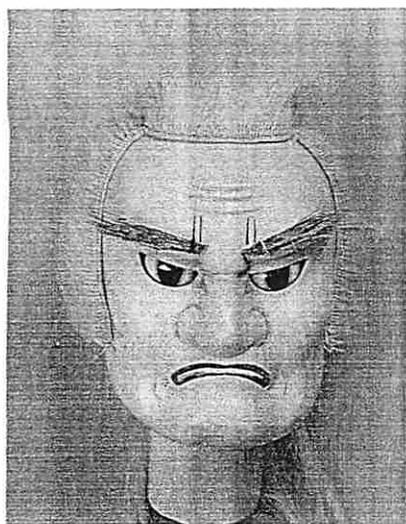
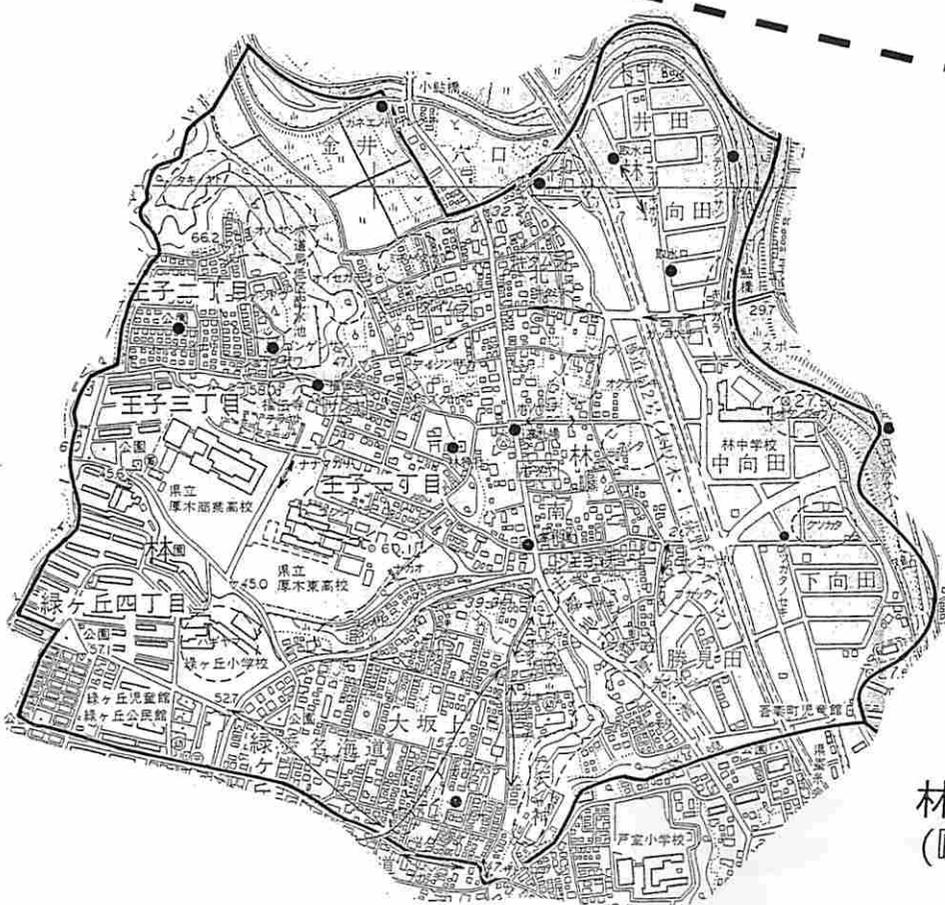
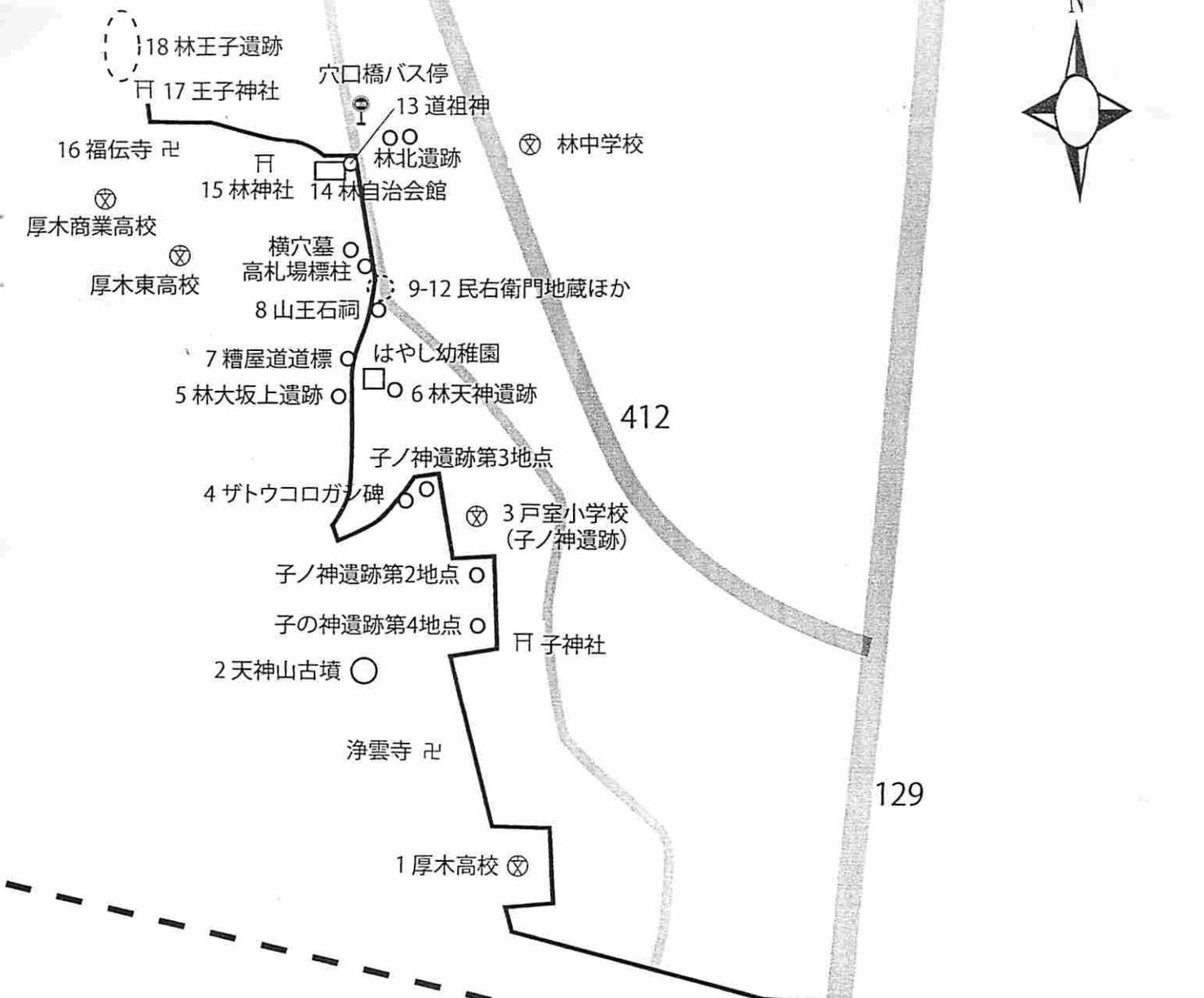
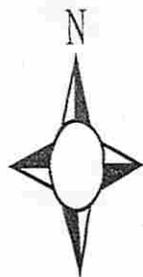


厚木市民文化祭

県央史談会史跡めぐりー林の文化財を訪ねてー

令和元年10月20日(日)





行程図

本厚木駅
小田急線

林の伝承資料位置図
（『厚木の地名』付図10転載）

1 厚木高等学校(神奈川第三中学)

- ① 希望ヶ丘高校 明治30年6月18日 神奈川尋常中学校 明治33年神奈川第一中学校(第二中学校ができたことによる)
- ② 小田原高校 明治34年4月28日 神奈川第二中学校
- ③ 厚木高校 明治35年4月13日 神奈川第三中学校
- ④ 横須賀高校 明治41年6月20日 神奈川第四中学校
- ⑤ 第三中学校略史
 - ・明治33年5月30日 文部省告示第152号・高座郡海老名村に神奈川第三中学校を設置し、明治35年4月より開校認可
 - ・明治34年1月24日 愛甲郡長原田千之介、郡書記らと協議。愛甲郡に移転を求めることとし、場所を南毛利村大字戸室大六天をその地とする。用地買収のため寄付金を郡内資産家に依頼
 - ・明治34年1月26日 買収仮契約
 - ・明治34年2月17日 周布知事予定地視察、井戸水が出るか試掘せよとあり、結果噴出せり



家形土器 総高39cm (子の神遺跡出土、厚木市指定文化財)

- ・明治34年2月26日 県より高座郡へ海老名村の第三中学校の位置に関する準備中止を連絡
 - ・明治34年3月12日 文部省告示第48号・神奈川第三中学校を高座郡海老名村から愛甲郡南毛利村に変更する(神奈川県告示第51号は14日付け)
 - ・昭和23年4月1日 神奈川県立厚木高等学校と改称(『戸陵百年の歩み』)
- 2 天神山古墳 平成2年。内径44m、外径60m、高さ5m
- 3 戸室子の神遺跡 昭和49年〜52年。
 竪穴住居・弥生中期7軒、弥生後期92軒、古墳前期61軒、古墳中期15軒、古墳後期4軒、奈良平安4軒
- 4 ザトウコロガシ(コロバシ) 大坂上の上の坂(『厚木の地名考』) 盲目の旅人が追いはぎに襲われ突き落とされたとか育ちの悪い赤子を捨てたとか伝えられる(『あつぎ子ども風土記』)
- 5 林大坂上遺跡 昭和39年。厚木高校歴史研究部。縄文土器、人面把手、石製品
- 6 林天神遺跡 昭和52年。弥生後期〜古墳時代前期竪穴住居11基、円墳(周溝)2基
- 7 糟屋道・大山道道標 安永7年(1778)
 「安永七戊戌年 地藏菩薩 北おきのみち 八月吉日」 「西 大山道 願主林村 是性恵心上座」 「東 かすやみち」
- 8 庚申社
 神体に円鏡を置く、鏡の背面に寛永9(1632)年、願主、大工(鋳物師)等の名を彫る(『風土記』)。
 「庚申供養 相州愛甲郡毛利莊林之郷 願主 佐次右衛門 助右衛門 仁右衛門 角兵衛 大工 荻野木村吉次 于時寛永九壬申天正月吉日」 仏像に二猿を配す(『厚木鑄工誌』)。



円鏡 寛永9年(1632)

10 民右衛門地蔵 元禄15年(1702) 林

村の百姓民右衛門は毎日大坂上の原へ畑仕事にでかけ、途中の地蔵さんにお参りを欠かさなかった。ある日、帰りに後ろから「民右衛門、民右衛門」と呼ぶ声を聞き、地蔵がさみしいその場所から移りたいのだろうと思いい、地蔵を背負い坂下に来ると急に重くなり、そこに安置した。以来、多くのひとがお参りをするようになり、民右衛門地蔵と呼ばれるようになった(『厚木の伝承と地名』)。

11 双体道祖神 寛政10年(1798)「寛政十年

□二月日」「林村下組氏子」

12 道祖神 文政期(1818～1830)「文政」

道祖神」「当所成瀬伝蔵」

13 双体道祖神 天明期(1781～1789)「天

明□□」「林上村惣氏子」

14 人形芝居林座 18世紀末ころには始

まっていたとみられる。幕末から明治にかけて吉田朝右衛門が指導した。昭和28年神奈川県無形文化財指定、昭和55年国指定重要無形民

俗文化財指定。

15 林神社 旧名：鹿島三島住吉合社

① 祭神：武甕槌命・大山祇命・中筒男命(『皇国地誌残稿』)

② 末社：稻荷・疱瘡神

③ 風土記記載

村の鎮守。社地を東林山と号す。

松杉繁茂し老楠一株を神木とす、廻一丈八尺

※一丈は10尺 3.03m

延享中(1744～1747)の書き物に、景行天皇25

年秋7月武内宿禰が北陸東方諸国の地形を定

める時、相模国は東の堺のため東夷守護のため、

相東林山にこの神を祀り代々愛甲神社といっ

たとある。

天正三年(1575)3月11日の棟札写しには、再

造三所大明神社とある。その時の旧本殿の柱に

墨書があったという写しには、「檀那相州住森

庄林之郷、井上姓の末裔長野市丞在原業秀」と

記している。

④ 鹿島神宮：祭神は武甕槌神

⑤ 三島大神：大山津見神

⑥ 住吉大神：伊弉諾の禊により生まれた、上筒男・中筒男・底筒男の三神を合わせ総称

⑦ 林公民館文書：明治6年7月30日、「右

○成瀬氏方掛仏 厚木市林 銘文(五如来像、

成瀬氏先祖夫婦の姿 陽鑄)「寛文六(1666)年

十月八日 大工荻野住 木村喜三郎(『厚木鑄

工誌』)。

○成瀬方掛仏 厚木市林 銘文「寛文八年四月

八日 大工木村権右衛門(西国、坂東、秩父計

百観音像 陽鑄)(『厚木鑄工誌』)

9 庚申塔道標 享和2年(1802)「庚申塔」

「南かすや道 北おきの道」「東あつき道

享和二壬戌」

「村社卜相定候事」

明治4年9月百姓水嶋亀三郎ら3人から
神葬祭許可願いが山中県役所へ出、認められる
(市史社寺571P)。明治5年6月太政官布
告で神葬祭仏葬祭も認める。

⑧ 社号変遷…愛甲神社↓三所大明神社↓三社
明神社↓林神社

⑨ 風土記に高札場の記載あり

16 福伝寺 堅固山。曹洞宗山梨県都留市

下谷所在長生寺末。

開山 白鳳宗淑(本寺11世、寛永14年2月
24日卒)

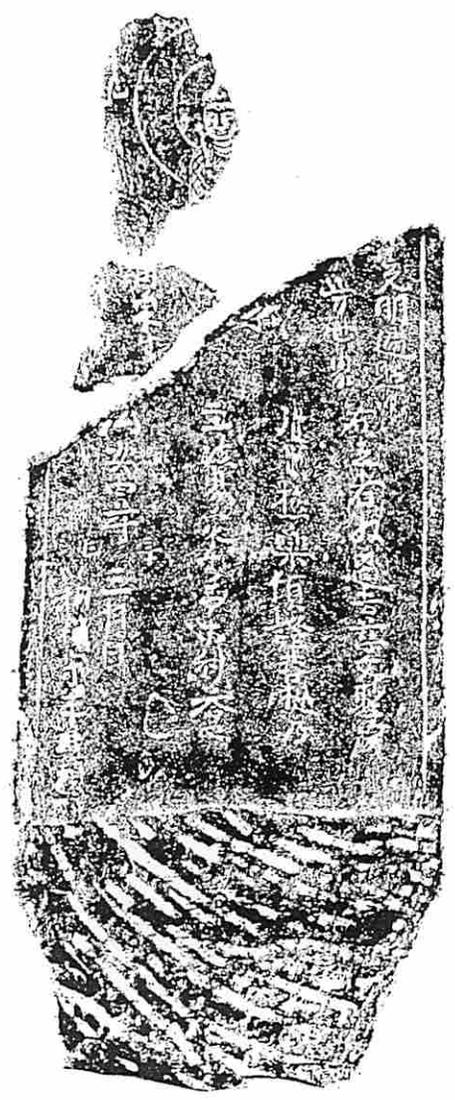
長生寺末の他の寺…浄雲寺(中興開山…格室雪
道)、興教寺(開山…格室雪道)(格室雪道、寛
文元年3月13日卒)

弘安4年(1821)の板碑

風土記記載

王子権現社 社地に弘安古碑あり。弘安四年
辛巳三月日、相模守平時頼と刻す、今年は時頼
卒後十八年に当たる、これも後人の贋造なり

稲荷社 王子稲荷と号す、弘安四年の勸請と
いう、弘安四年三月の棟札あるが後人の贋作と
みえる、福伝寺持ち



福伝寺所在 弘安4年(1281)
の板碑 現存高 91.5cm 幅
44.2cm

〔銘文〕

(阿弥陀三尊線刻カ) (六地藏トミラレル)
(梵字ヲ田輪デ囲ム)

光明遍照

十方世界

右志者為過去慈父聖靈
往生極樂頓證菩提乃

念仏衆生

撰取不捨

至法界衆生平等利益

弘安四年辛巳三月日

〔後刻〕
「相模守平時頼」

吉田朝右衛門墓碑 「明治十六未年三月一日

婦元独庵眼照禅男位 俗名吉田朝右エ門」

所吉田連 山口由太郎 米山民右衛門 成瀬

勇次郎 岩崎峰五郎 小島半次郎 杉山音次

郎 成瀬十七吉 井上正平 鈴木清太郎 施

主代平井慶三郎」長谷村 吉田連」

薬医門 旧荻野山中陣屋より移すという

〔寺院の文化財〕

17 王子神社 王子権現社

18 林王子遺跡 昭和48年。縄文時代中期

竪穴住居 38基、弥生時代末竪穴住居 1基、円

墳(周溝) 3基



有孔罎付土器 高26.5cm (林王子遺跡出土、厚木市指定文化財)